

## ログハウスは自分で建てよう

NRC会長 結城 仁氏より投稿

### 1. 「保田の斎藤さんに感謝」

“保田洗心庵”に通い続けること20数年、NRC特別会員斎藤稔さん・照子さんご夫婦には、ご迷惑やら散財やらですが、我々にとっては極めて快適な“遊び”が出来、心身共にリフレッシュしておりました。しかし年を重ねると年金暮らしが増え山登りはとつても厳しい状態になってしまいました。

ある日、斎藤さんより「山小屋を建てるには絶好な場所がありますよ、絶対ご推薦です」と声が掛かりました。腹の内ではすぐ飛びつきたいところですが、どの様な建物をどの様にいくら位かかるか等と考えると返事も出来ずに居りました。無責任に誰かがヤロウと言ってくればいいな等とも思い、決断するには程遠い状況でした。

時間が経ち話題も少しずつ遠ざかってきた頃、考えれば考えるほどこんな絶好な話は無いと思えてなりませんでした。社会的に言えば「人・物・金」をどうするか。遊びのサークルだから資金を最低でやりたい。など考えると計画はどんどん遠くなってしまいます。それでも石井さん達とログハウス展示場に何回も足を運んで見ました。これは良いなと思うものは150万位かかる、これでは却下。そんなことをしてるうち、旧友から極安で提供してくれるルートが有ると話が出て来ました。最初はあまり信用出来る話と思わず打合せを続けて見た結果、ぜひこの話しに乗ろうと決めました。

最初斎藤さんからお話しを聞いてから約1年たってしまいました。

鶴田さん他数人の方たちに相談し、ある程度の計画を作り上げました。皆さんも誰か切り出せば良いと思っていた様でした。そこで賛同してくれた5人（鶴田・石井・柴木・浅沼・結城）でスタートすることとし、大雑把な取り決めをしオーナーになる斎藤さんをお願いをすることとなりました。二つ返事をいただきましたが、ログハウス代を除き約30万の資金集めに頭を悩ませることになりました。5人での共同出資とほかの方からの協力をお願いするとして“GO!”となりました。

斎藤さんの言われた“ご推薦の場所”に大きな夢が膨らんで来ました。ほんとうに感謝・感謝です。

### 2. 「まずは道づくり」

ログハウス建設用地（お勧めの場所）は東京湾を見下ろし、向こうには三浦半

島が見え、その遙か彼方に日本一の富士山が望める絶好な景観です。しかし、用地の周りには大きな木が生えていて絶好な景観が台無しになってしまっています。冬はまだ良いのですが夏になって葉が茂ってしまえばほとんど見えなくなってしまいます。畑の為に、景観の為に周りの木をばっさばっさと切ることになりました。

ところで、建築に必要な資材などを運ぶための道づくりが急務となった。15年12月30日NRC水仙刈りの日に現場調査をした。道のルートは水仙畑の真ん中を約100m、急坂急カーブの道路が石井技師により設計された。人力では到底不可能なので、バックホー（建設車両のバケット車）を依頼することとした。ここでも道のルート上に直径4~50cmクラスの木が有り伐採をすることになった。

1月16日~18日はバックホーが稼働出来るように伐採・U字溝の増設・清掃を行うこととなった。

16日夕方7時練馬に4人(鶴田・柴木・蜂谷・結城)が集合。23時保田に到着。南の国房総でもかなり寒い、洗心庵で景気をつけ、明日の英気を養う。

17日(土)寒いはずだよ外は雪、朝食を取りモタモタしていると石井さんがバックホーのオペレーターと到着。道普請の段取りを決め、18日(日)にかけて準備作業を完成させる。

道路は、軽四輪駆動車が登れることを条件に設計されたが、土を崩しただけでは、雨風で崩れる心配もあるので、路面処理を後で検討することにした。老骨に鞭をうったため、全身に疲労を残して帰宅。

第二回目 1月31日(土)朝6時練馬駅集合 鶴田・結城

参加者は少ないが今回の作業は一杯ある。明日石井さんと一緒に作業車があるので、準備に怠り無く進めなくてはならない。

現地に着くと、なんとまあ一前回張った仮設テントが大風に飛んでしまっている。骨はポロポロ、鶴田外科医の応急処置でもう一度張り直し、今度は大丈夫だろう。鶴田強力さんは、上の洗心庵から重量物を何回も往復して運搬してくれた。(本当にありがとうございました)夕食は2人だけど超豪華版で、焼きたてのピフテキに舌つつみをうって早々と仮設テントで熟睡。

2月1日(日)今日は道普請の本番。9時には石井さんとトラック2台その上にバックホー2台が到着。たちまちにして道路が出来上がっていく。けれども、きれいに咲き乱れている水仙がキャタピラに踏みつけられていくのは一寸残念。ごめんね!

昼食は、何時もの事ながら斎藤さんの応接室でご馳走になる。東京では一寸お目にかかれない「海鮮カレー」。ログハウス提供者も現地調査で来て「海鮮カレー」を賞味、程よく動いた後のご馳走には特に感激していた。

ログハウスを提供して頂く(株)三輝の石井会長以下 4 名は、洗心庵を見学しNR  
Cの人力に感心したり(あきれたり)。

明日からの仕事を考えながら帰路につく。

運転はいつも鶴田さん、ほんとうにありがとうございます。

以下次号につづく